

平成 27 年度 第 4 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

上坂 貴志 栗島 聡

Activity Report of SPM Research Committee

Takashi Uesaka Satoshi Kurishima

研究委員会では現在 9 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 27 年 7 月 31 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査：横山 真一郎 東京都市大学)

QFD (Quality Function Deployment : 品質機能展開) の考え方を応用した要求整理方法を中心に、プロジェクト計画立案の手法、方法論を検討しています。2015 年は、これまでの要件定義の研究成果を整理し、重要なディスカッションテーマを振り返るとともに、近年の技術の変化も考慮して、要件定義に重要な普遍的な考えをまとめる活動を進めています。同時にプロジェクトマネジメントの課題を議論し、将来の研究テーマを検討しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・6 月 19 日：研究会開催

メンバーから、プロジェクトの計画段階にリスクの影響度を客観的に評価する方法について、現状と課題の議論がありました。その中でステークホルダーとリスクの関係性について盛んに議論が展開され、次回その関係性を整理することとなりました。

・7 月 17 日：研究会開催

本年の ProMAC において、プロジェクト計画段階で識別される情報、および実行段階で分かる情報を用いてプロジェクトの成否を推し量る方法を発表します。7 月度は発表タイトルと概要を確認しました。また先月に引き続き、ステークホルダーとリスクの関係性についての検討が報告されました。ステークホルダーの重要性とリスクの影響度に関係性が有り、ステークホルダーという観点でリスクの影響度を見るということについて議論が進みました。またプロジェクトの局面により影響するステークホルダーが変わることも議論されました。

<今後の予定>

・8 月 29 日：研究会開催

ProMAC で発表する内容を確認し、今後作成する書籍の内容の議論を予定しています。またメンバーからの研究の取り組みや課題について議論します。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査：武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所)

1 ヶ月に 1 回のペースで研究会を開催しています。2015 年度 ProMAC に向けてプロジェクトに潜在するリスクの蓄積・評価に関わる研究をテーマに会員全員で取り組みます。興味や関心のある方の入会を募集しています。

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャルPMの体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

<直近の活動実績>

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICTプロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

・7月10日：研究会開催 [場所：豊洲センタービル]

取り纏め中のガイドラインについての今後の進め方、分担などについて

[議事内容]

- ① ガイドラインについては、現行の ICT 街づくりプロジェクトのベストプラクティスを反映する
- ② PMBOK をベースとし、街づくりプロジェクトにおいて特有な考え方、進め方などのマネジメントについて記述する

<今後の予定>

- ・ 9 月：研究会
ガイドライン内容のレビュー

【問い合わせ先】 yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

(4) PM 人材育成研究会

(主査：池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

「企業のプロジェクトマネジメント力向上」について、以下の研究を継続して行っています。

1. 教訓の継承

組織的な教訓のまとめ、および組織内での継続的な展開

2. 人模様の把握

プロジェクトにおけるステークホルダーの人間関係についての把握

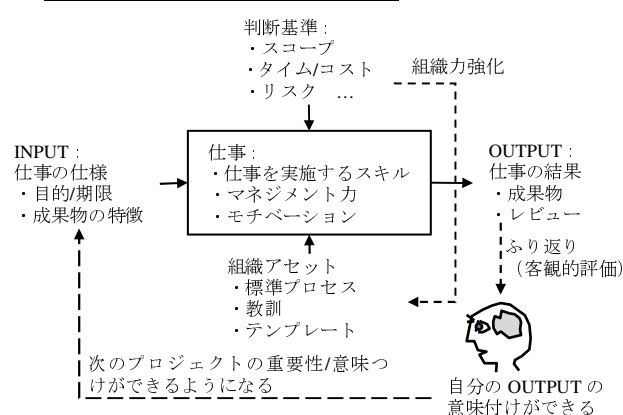
5月度、6月度では、上記の2点を絡めながら、PM 育成について議論しました。

これまでのPM育成法としては、PM候補者を選び、プロジェクトマネジメント(PMBOK等)を教えて、PMとしてプロジェクトにアサインして経験を積ませるということが主体でしたが、現実では以下の問題がありました。

- ・PMとして経験を積ませるには、人、時間、資金の余裕がないと困難
- ・プロジェクトマネジメント(PMBOK等)を教えるだけでは、PMの実践力は身につかない。

よって、プロジェクトマネージャーがいかに通常の仕事の中でスキルがつけられないかを考えました。プロジェクトマネージャーの仕事とふり返りについて以下のモデルは下図のようになります。

プロジェクトマネージャーの仕事とふり返り



プロジェクトのメンバーとして仕事を遂行する中で、仕事をマネジメントする力や人をマネジメントする力を養い、PMに必要な力を身につけさせる。その延長で、PMBOK等の知識を絡めて教育していくことになります。

よって、仕事を遂行するためには以下の力が必要になります。

1. 仕事を遂行する（成果を生み出す）力
2. 担当した仕事をマネジメントする力
(計画作成、進捗把握、状況報告、問題対応等)
3. 人をマネジメントする力
(自分の仕事に関連する担当者との調整、ユーザーへの説明等)

今後仕事を遂行する中で、PMに必要なこれらの力を養うことができるような施策を検討していく。

今後の活動：

8 月度 仕事の計画について

9 月度 仕事の進捗について

【問い合わせ先】 pmcom2014@freeml.com

(5) パーソナル PM 研究会

(主査：富永 章 PM ラボラトリー)

個人活動への PM 適用を研究しています。モダン PM の一環として、仮説や主張というより実践の知恵の積み重ねとする点が、成功哲学や自己啓発等とは一線を画するものと考えています。

組織にモダン PM が役立つと同様に、パーソナル PM は個人がぶれない軸をもって物事に取り組むのに役立つと、メンバー一同自負しています。

重なりのある大きな関連分野として、経営学の「ミクロ組織論」があります。心理学の自己実現、モチベーション、リーダーシップ論などを深く参照している点で、似ていることが確認できます。

最近の U 理論もそこへ分類可能と思われますが、そこでパーソナル U プロセスが発案されているのに気付きます。そちらの目的は組織経営ですが、こちらはいわば人生の経営かもしれません。

現在の主要な活動として、各メンバーが個人プロジェクトの Lessons Learned を、体系としてのフレームワークにほぼ沿いつつ、とり纏めています。個々の知恵の集積が、パーソナル PM の体系自体の改善にも役立つと期待しています。

パーソナル PM への一般の関心も高まってきたので、日本の PM 普及・推進にも役立つようにさらに工夫をしていきます。次の 3 つを当研究会活動のゴールと位置付けています。

- ① パーソナル PM をモダン PM の 1 領域として確立する。
- ② 各自がテーマを追究し成果を共有することにより、メンバー相互の成長を図る。
- ③ パーソナル PM を社会に役立て、PM を品質に次ぐ日本の強みにすることに貢献する。

<直近の活動実績>

- ・ 6月11日：第76回会合 於日経BP社、PMI-EMEA 参加報告、情報発信の枠組、PM 講義新規開設例、個人PM事例
- ・ 7月4日：第77回会合 於PMラボラトリー、ロードマップ更新検討、個人PMのLL、マイクロ組織論・自己実現心理学との関連、自由発表

<今後の予定>

9月7日：第78回会合 於筑波大学茗荷谷、情報共有、情報発信レビュー、続自己実現（心理学）関連検討、個人プロジェクト例、自由発表

(6) メンタルヘルス研究会

（主査：前田 英行 日立公共システム）

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

(7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 DSR）

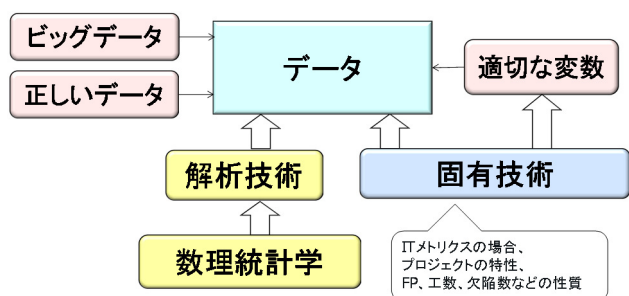
プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

アナリティクスは組織内およびインターネットに存在する大量のデータもデータ解析の対象にする領域ですが、近年はR言語などを活用して高度なデータ解析が容易に実施できるようになりました。

そこで、今年度はアナリティクスの手法の学習と活用の研究も対象にした活動を開始しました。

その結果、現在の学習・研究テーマとしては以下の3つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用



データ解析とアナリティクス

<今後の予定>

会合は1回/月を目安に開催していますので、ご興味ある方の参加をお待ちしております。

当研究会では現時点までの活動でExcel統計、コスト評価知識体系(CEBoK)、要求の仕様化技術、などのコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎します。

(8) R&D プロジェクトマネジメント研究会

（主査：久保 裕史 千葉工業大学）

価値創造をもたらすR&Dプロジェクトマネジメント(R&D PM)の知識体系構築を目指して、活動を進めている。

本研究会の主な活動は、4つのWG活動(啓発、定義・ツール、ステージゲート、人材育成)と、個人別の学会発表、そして外部講師による特別講演会の3つである。各WGはそれぞれ本年度のテーマに沿って着実に活動が進められている。5/27と7/29の定例会では、各個人が今年の春の学会で発表した内容を紹介し、議論が行われた。ここでは紙面の都合により、以下に、論文タイトルのみ紹介させて頂く。「P2M導入によるR&Dプロジェクトのための人材育成マネジメント」(五百井)、「P2M導入によるR&Dプロジェクトのための人材育成マネジメント」(清田)、「P2M導入によるR&Dプロジェクトのための人材育成マネジメント」(山崎晃)、「急激な環境変化に強いR&Dプログラムマネジメント」(金子)、「プログラムにおける価値指標の種類と関連付け方法の提案」(田隈)、「PBLを用いたビジネス創成教育」(久保)。

7/1の特別講演会では、GOB Incubation Partners(株)代表の山口高弘氏による「イノベーションを起こす「型破り」な思考法」を講演頂いた。先ず、同氏の波瀾万丈の経歴に一同驚かされたが、内容は非常に示唆に富み、且つプレゼンの仕方そのものも素晴らしく、感銘を受けた講演であった。印象に残ったことをいくつか挙げておく、アントレプレナーであれ、イントラプレナーであれ、イノベータは特有のコンピテンシーを身に備え、それは優れた経営者の特質とは反する(価値発見力>価値実現力)。イノベータは、実在する一人の観察からヒントを得て、0から1を産み出す。「捨てる力」、「関連づける力」、「試す力」が重要。

<直近の活動実績>

- ・ 5月27日：第23回定例会 [場所：千葉工大]

- ・ 7月1日：第24回定例会，特別講演会「イノベーションを起こす型破りな思考法」山口高弘氏
[場所：千葉工大]
- ・ 7月29日：第25回定例会 [場所：千葉工大]

<今後の予定>

- ・ 8月27日：第26回定例会，特別講演会
「研究開発とプロジェクトマネジメント(仮題)」
瀬川秀樹氏 [場所：千葉工大]
- ・ 9月24日：第27回定例会 [場所：千葉工大]

【問い合わせ先】 rd-pm@googlegroups.com

(9) フロネシスPM(知恵ある実践)研究会
(主査：本間 利久 北海道大学)

2012年10月に発足した研究会です。この間、
28回の研究会および「WS2013 in Seoul」と「WS2013
in Kuala Lumpur」を実施しました。これまでの研

究会の活動内容は学会誌 Vol.14, No.6 (2012),
Vol.15, No.1-6 (2013), Vol.16, No.1-5 (2014), Vol.17,
No.1 (2015) の研究会報告に掲載されています。
さらに，学会誌のトピック記事 Vol.15, No.6(2013)，
連載記事 Vol.16, No.1-5 (2014)， Vol.17, No.1-2
(2015)， @PM.Letters 82 (2013)， @PM.Letters 91
(2015) があります。

2. その他

活動中の研究会への参加や，新規研究会活動に
関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】 pmKenkyu@jp.ibm.com

研究委員会委員長 上坂 貴志
研究委員会委員 川口 智／笠崎 裕子